

M. カニングハムと J. ケージの係わりによる舞踊と音楽の絆

神戸大学 花木沙織

1. 序

舞踊はそれ自体で独立し得る芸術であるが、実際には音楽なしの舞踊作品はほとんど見られない。本研究では舞踊と音楽のこの密接な関係の意味を考えることが目的である。そのために、これまで舞踊の3つの主要なジャンルにおける舞踊と音楽の関係を概観してきた。その結果、舞踊と音楽を独立して作りそれらを一つの作品として実験的に同時進行するという手法をとった舞踊家M. カニングハムと故前衛音楽家J. ケージの共同作業がつくり出す特徴ある舞踊と音楽の関係が浮かび上がってきた。そこでその共同作業の意味を中心に文献を通して考察し、舞踊と音楽の関係の側面を見ていく。

2. 共同作業に取り組むようになった経緯

コーニッシュ芸術学校でダンスクラスの伴奏者兼作曲家として、ケージはカニングハムの前に現れた。その後ケージは、グラーム舞踊団のソリストとしてN. Yで活躍するカニングハムに独立するように促し、「何か二人で一緒にやらなければならない」と彼を説得した。そして1942年以降、50年ちかくも共同作業に取り組んでいった。

3. 舞踊と音楽の絆

彼等の共同作業は、お互いに全く干渉することなく、それぞれの仕事を作り上げるところが最大の特徴であるといえる。そしてそれらを実験的に同時進行させて、そこで何が起るのかそれ自体を目的としている。舞踊と音楽は、その起源を「人間の情動的衝動の動的随伴」^{註1)}としている。これはつまりそれらの発生起源は等しく「人間」であるということを示唆し、このように血縁的關係の舞踊と音楽の間には、根源的な「絆」があるといえよう。そしてカニングハムとケージはそういった「絆」を確信していたのではないか。つまり舞踊と音楽はどんなに独立してつくってもそれらを同時進行させると、そこに何かが生じ、それは生みの親である人間に響くはずだ、という確信である。彼等の共同作業は、そういった舞踊と音楽の「絆」を浮き彫りにすることができるのではないか。

カニングハムとケージは、1940年代初期より時間・空間芸術である舞踊と音楽の新しいあり方を目指して「リズム構造」の概念を中心とした共同

作業を始めた。その「リズム」はL. クラーゲス等の説く生命現象そのもの、単なる機械的反復ではなく質的变化を伴った類似者の更新、持続的な時間性と空間性を有したものと考えることができる。「リズム構造」をふまえた共同作業は、時間と拍節を厳密に共有しているという点において、まだ比較的制約を含んでいるものだった。それを経た後彼らは、舞踊と音楽が完全に独立する方向に向かったのだが、それは独立しながらも本質的、有機的一部となる関係—絆—を築くことに向かったといえる。その絆とは文化人類学者のE. ホールの説く、人間間の原初的結びつきである共調動作、つまり生きたリズムを根底とした無意識的繋がり、と考えられるのではなからうか。接し合っている人間は、音楽も伴奏もなくとも共調しており、そのシンクロナイズされた動作の無意識の底流が人間集団を結びつけているという。即ち、カニングハムとケージの目指した舞踊と音楽のあり方は、独立してはいるが相互に認め合い、お互いの本質の一部であるような関係というものである。これは、柴(1993)も指摘するような、各々の個性を認め一つの独立した存在として他者と自己を把握することが一つの目安となる豊かな人間関係に、類似していると考えられる。

4. 結語

以上より、彼等の舞踊と音楽のあり方は、目にはみえないが確かに存在している「絆」を確信している人間同士の関係に類似していると考えられる。またそのあり方は「人間が生きている過程そのもの」を現前させるとも考えられる。その現前が人間に響くのであれば、それは一つに舞踊と音楽の深い絆がもたらしたとも考えられるのではなからうか。

〈主要参考文献〉

- ・M. ドーブラー／松本千代栄訳「舞踊学原論」大修館書店(1974)註
- ・J.Lesschaeve／石井洋二郎訳「カニングハム動き・リズム・空間」新書館(1987)
- ・J. ケージ, D. シャルル／青山マミ訳「ジョン・ケージ 小鳥達のために」青土社(1982)
- ・J. ケージ／柿沼敏江訳「サイレンス」水声社(1996)
- ・佐々木修編集「マース・カニングハム舞踊団公演プログラム」日本文化財団(1998)
- ・エドワード・T・ホール 岩田慶治／谷泰 訳「文化を超えて」TBSブリタニカ(1979)
- ・柴眞理子「身体表現」東京書籍(1993)
- ・L. クラーゲス／杉浦実訳「リズムの本質」みすず書房1971
- ・Robert Greskovic; Merce Cunningham (Martha Bremser : FIFTY CONTEMPORARY COREOGRAPHERS ; Routledge 1999)